



いちばら議会だよりの「議員の小部屋」を担当しています。

# 小沢みかの市議会報告



市議会議員 小沢みか

ブログ検索→「ミかのメイクオフ日記」- 出会い、想いを素顔になってつづけます。

## 慎重に!

### 保育所・学校・市役所・公園など

## 身近な施設への農薬・殺虫剤散布

樹木の毛虫や建物内の害虫などの駆除に当然のように使用される農薬や殺虫剤。これらは知らない間に私たちの健康に悪影響を及ぼす可能性があると言われています。不特定多数の市民が訪れる公共施設での散布の実態について、議会で質問しました。



患者さんが市内にも

とも困難になります。私のところにも患者さん方からの訴えが届いてきます。

#### ◆ここまで進んだ国の対応

国は、農業による健康被害の事例が多く寄せられたことを背景に

- 定期的な散布はしない
- 剪定などで農薬を使わない防除方法を優先して行う
- やむを得ず散布する場合は事前に周知し、立ち入り制限などの対策をとる

とご通知を出しています。

また、施設内のわずみやコメブシなどの駆除も殺虫剤を過剰に散布せず、乳幼児がいる区域では使用を避けるなど、薬剤に頼らない防除方法を求めています。

#### ◆しかし市の実態は

今回、私の調査で市は国の通知や指針に対する職員の認識が全く不十分であることがわかりました。慢性毒性が認められている有機リン系の薬剤が、保育所をはじめ様々な施設で多用されています。また、事前調査の



ない薬剤使用、利用者や周辺住民への周知、記録簿の管理など、役所内で体制がバラバラでいた。

柏千葉 佐倉では、独自の指針を定め役所全体で管理する体制を整備しています。市原市は、まずは散布の実態をきちんと調査・把握すること、国の通知や指針について職員への周

## 市民との対等なパートナーシップの確立

### -新しいまちづくりのために-

市原市では市民団体と行政との協働事業の取り組みが活発化してきました。一方、市の政策や事業計画、評価に対しては、市民の参画が思うように進んでいません。パブリックコメント制度の確立や審議会の委員の選任について、提言しました。

知徹底から始める必要があります。

公共施設は乳幼児からのお年寄りまで様々な市民が訪れる場所であると同時に、大勢の職員が働く場でもあります。健康に影響を及ぼさない環境づくりのために、今後も働きかけていきます。

が十分に与えられていないと言えない状況です。

#### ◆パブリックコメントの制定を

市原市のパブリックコメントには、この計画に対し、いつから何日間行うのか、集めたコメントをどのように取り扱い公開するのか、などの決まりは全くありません。そのため、行政の都合でいかようにもなる大変不透明なものです。

最近の市庁舎耐震対策に関する意見募集では、突然で期間も短く、結果に対する説明も不十分だったため、市民の間では逆に不満の声が広がっています。

市民の意見を止しく反映し、信頼関係を築くためには、市民が納得するパブリックコメント制度の確立が必要です。私は議

会で条例の制定を強く訴えました。

#### ◆協議の場への女性の参画を

また審議会は、行政が様々な計画や方針を立てるための諮問機関で職員以外の専門家や関係機関の代表者、公募市民などで構成されています。ところが、女性委員の割合は21.9%。10年前よりも大きく変わらぬ、市の掲げる目標値30%にも遠く及びません。

まちづくりには女性ならではの視点が大切です。審議会の委員をはじめ、あらゆる協議の場への女性の参画をもっと意識的に確保するよう訴えました。

#### ◆対等なパートナーシップを



行政が求める市民団体との協働は単なる事業の下請け化につながりかねません。市民の声を反映して初めて市民との対等なパートナーシップが築かれます。

市民ネットは今後も情報公開・市民参画の推進を市に求めていきます。